

平成 24 年 2 月 10 日

各 位

福岡県福岡市中央区薬院一丁目1番1号
 株式会社 アイフリーク
 代表取締役社長 伊藤 幸司
 (コード番号: 3845 大証 JASDAQ)
 問い合わせ先 管理担当取締役 橋本 裕
 電話番号 092-738-3800 (代表)
 U R L <http://www.i-freek.co.jp/>

商品評価損の計上、通期連結業績予想及び個別業績予想 の修正に関するお知らせ

当社グループは、平成 24 年 2 月 10 日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、商品評価損の計上、平成 23 年 8 月 5 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日）の連結業績予想数値及び平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日）の個別業績予想数値を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 商品評価損の計上

E コマース事業において、薬事法、景品表示法の改正や運用強化及び年度内での各サービスの整理と再構築を実施するため、商品ラインナップの変更等、商品評価損 87 百万円が第 3 四半期にて発生し営業利益に影響しております。

2. 通期業績予想の修正（平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日）

(1) 平成 24 年 3 月期連結業績予想数値の修正（平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日）

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,854	122	131	69	789 円 65 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	2,035	385	378	387	4,427 円 59 銭
増 減 額 (B - A)	819	507	509	456	-
増 減 率 (%)	28.7	415.6	388.5	660.9	-
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 3 月期)	2,860	306	322	151	1,743 円 06 銭

(注) 前期実績 (平成 23 年 3 月期) は、連結財務諸表を作成していないため、単体の業績を参考に記載しております。

(2) 平成 24 年 3 月期個別業績予想数値の修正 (平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日)
(単位 : 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,854	122	131	69	789 円 65 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	2,035	372	364	373	4,267 円 42 銭
増 減 額 (B - A)	819	494	495	442	-
増 減 率 (%)	28.7	404.9	377.9	640.6	-
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 23 年 3 月 期)	2,860	306	322	151	1,743 円 06 銭

(3) 修正の理由

当社グループの事業が関連するモバイル業界におきましては、フィーチャーフォンからスマートフォンへのシフトが続いております。このような環境下において、当社グループでも環境の変化に対応すべく、スマートフォン向けのサービス構築に先行投資を行ってまいりました。順調に会員基盤を拡大させているものの、年度内で投資回収を図るべく事業見通しを立てておりましたが、上記のような環境等もあり投資回収の進捗が遅れが発生しており、売上高の減と商品の評価損の計上等が、営業利益、経常利益及び当期純利益に影響を与えました。結果、当初計画での売上高及び利益の達成は年度内に見込めないと判断致しました。

また、E コマース事業は、薬事法・景品表示法の改正や運用強化により、旧来のビジネスモデルでは事業リスクが高く利益獲得が困難となっています。そのため、年度内での各サービスの整理と再構築を断行するため、商品ラインナップの変更等を実施した結果、87 百万円の商品評価損が発生いたしました。なお、商品在庫に対する精査を続けており、第 4 四半期において追加評価損の発生・計上を想定し業績予想数値の修正に織り込んでおります。

今後、当社グループは、現在投資回収が遅れている事業をより大きな事業へ育てていくとともに、コスト削減等も進めながら業績の回復に全力を挙げて取り組んでまいります。

また、平成 24 年 2 月 3 日に公表した次世代デジタル郵便(ハイブリッド郵便)事業において、Oak キャピタル株式会社及びデジタルポスト株式会社との事業提携を通じ、当社のノウハウ及び顧客基盤を活用しながら、モバイルコンテンツビジネスの拡大も図ってまいります。

さらに、上記 Oak キャピタル株式会社へ第三者割当による新株予約権の発行も実施し、より資金面の充実を図りながら、事業の拡大も進めてまいります。

() 来期の収益見込について

来期の売上高及び利益面の見込について、モバイルコンテンツ事業は、当社の強みであるデコメ事業で「スグデコ!」等のスマートフォン向けサービスが着実に顧客基盤を増大させているとともに、当期、先行投資している分野の一部である、位置情報サービス「cocoGe(ココゲー)」やデジタル絵本アプリ「こえほん」が着実にダウンロード数を伸ばしており、新たな収益基盤として売上高及び利益面への貢献が期待できます。

また、デジタルポスト株式会社と提携するデジタル郵便事業は、当社が培ってきたデコメのクリエイティブ力を十分に活かせるノウハウをもった事業故、今後の成長基盤として売上高及び収益向上に期待できます。

E コマース事業は、当期に推進している Web&店頭の複合販売モデルと、多ジャンル商品を低コス

トで展開できるサービスモデルへの再構築が一定の成果を挙げており、収益性及び商品回転率の改善が見込めます。

よって、当社グループ全体での売上高が回復する目処が立ったため、当期比損失の大幅減少により、黒字化を見込んでおります。

なお、平成 25 年 3 月期業績予想については現在策定中であり、決定次第、適時開示いたします。

以上